

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ① 互いに切磋琢磨し、学び合い高め合う喜びを身につける
- ② 生活習慣を正し、健やかな心身を保つ態度を身につける
- ③ 地域体験から地球へと広がる探究の楽しさを身につける
- ④ 社会貢献と自己実現を図る進路選択の態度を身につける
- ⑤ 地域の歴史や文化を尊重し継承する態度を身につける
- ⑥ 広い視野を持ち、多様な人々と協調する態度を身につける

上記①～⑥を教育目標とし、次に掲げる方針に基づいて教育を行う。

- ア 自他を励まし、互いに教え合う教育活動に取り組む
- イ 健全な生活習慣や心身を鍛える教育活動に取り組む
- ウ 地域や地球の課題を探究する教育活動に取り組む
- エ 社会貢献体験や自己洞察する教育活動に取り組む
- オ 地域の歴史や文化に共感する教育活動に取り組む
- カ 表現力や発信力を高め、国際感覚を養う教育活動に取り組む

2 学校の特徴

本校は、富山県簡易農学校として明治27年に創立して以来129年の歴史を有し、地域の期待を担い、生徒の進路目標の実現と社会性の育成を目指した教育活動を実施している。平成22年に南砺総合高等学校井波高等学校と、令和2年に南砺福光高等学校と再編統合し、現在は、普通科、国際科、農業環境科、福祉科の4学科で構成されている。

自然と文化・歴史の豊かな南砺の地で学ぶ本校の生徒は、素直で真面目、学校や教師を信頼し、学習活動をはじめとした諸活動に一生懸命に取り組んでいる。

普通科は、大半の生徒が国公立大学を中心とした4年制大学への進学を目指していることから、高い学力と思考する態度の育成を図りながら、2年次より探究コース、文系、理系の類型別授業編成を実施するなど、進路希望に沿った学習指導を行っている。国際科は、世界や地域で活躍できる人材育成をめざし、2年次から Human Science（文系）、Natural Science（理系）の2類型で、確かな語学力とグローバルな視野を養成している。農業環境科では、体験的な学習や学校農業クラブ活動などを通して、専門的な知識・技術と社会性、実践力を身につけ、2年次からは野菜、草花、土木の3類型に分かれて専門性を磨き、希望の進学又は就職へと繋げている。そして県内唯一の福祉科は、高齢者・障害者・児童の福祉についての専門的な知識・技術を幅広く習得し、福祉社会に貢献できる人材を育てている。平成26年入学生からは介護福祉士国家試験（筆記）の受験ができるようになり、昨年度まで7年連続全員合格を果たしている。

3 学校の現状と課題

令和2年度に南砺福光高校と再編統合して以来、一昨年度からは3学年とも4学科がそろい、総数750名の生徒が共に学校生活を送っている。系統の異なる4学科が、伝統を引き継ぎながら融合し、新しい南砺福野高校を創っていった。

生徒は素直で真面目さ、謙虚さをもち、学校や教師を信頼し、学習活動をはじめとした諸活動に一生懸命取り組んでおり、このことが、学力の向上や進路実績、学校行事での自分の役割を自覚した行動、部活動の実績などに結びついている。

このような良い面をさらに伸ばすとともに、南砺市の高校として、生徒・保護者から信頼され、地域の誇りとなる、魅力ある学校にするために、2024年度は特に、(1) ICTの活用やAIなど学習指導法の研究及び若手教員の指導力の向上、(2) 正確な情報提供と面談を通しての心身共に健康な福高生の育成、(3) 進路目標実現に向けた丁寧な進路指導と資格取得の推進、(4) 主体的態度と思索する心の育成、(5) 保護者との連携強化と開かれた学校づくりの5点について、重点的な取り組みを行うこととしている。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針、及び計画	
1	学習指導	目 標	・専門領域の絶えざる研修と、教育の本質に即しての人間性の啓発、涵養 ・生徒の実態を把握し、能力に応じて自学自習できる素地を養うことによる学習意欲の向上 ・46分7限で質が高く効率的な授業となるよう、教員、生徒の意識の高揚
		計 画	①生徒の基礎・基本の定着と授業の理解度、学習意欲の向上を図るために、<u>タブレットPCなどのICTを活用した授業や、アクティブラーニング等</u>をとり入れた授業、教育クラウドを活用した学習指導などの研究を推進する。特に、<u>若手教員を中心に互見授業や校内外の研修などを推奨し、教科指導法の改善・工夫に努め、指導力の向上をめざす。</u> ②3年間を見通した学習指導計画に基づいて、学習シラバスを作成・配布し、生徒に短期的・中期的・長期的な目標を明示することによって、自主的で計画的な家庭学習習慣を身につけさせる。 ③生徒の生活実態を把握するための実態調査や個別面接に努め、適切な助言や指導を行うことによって、問題点の早期解決を図る。 ④農業環境科や福祉科では、<u>資格取得や各種検定合格に向けた学習を通して、学び方や考え方を身につけ、課題解決に主体的に取り組む態度を育てる。</u>
		重点 -1-	
		重点 -3-	
2	学校生活	目 標	・基本的な生活習慣を自主的に身につけるための環境づくり ・社会的な規範やマナーを遵守する態度の育成
		計 画	①<u>基本的な生活習慣の確立を目指して「時間の厳守」「礼節の尊重」「服装違反の防止」「交通ルールの遵守」を指導の柱とする。</u> ②<u>日常の学校生活の中で、生徒とのコミュニケーションを積極的に図ること</u>により、基本的な生活習慣について生徒が自主的に考える環境をつくる。 ③全教職員の共通理解を図り、学年、学科、各分掌が連携した実践を行う。 ④地域や家庭との連携を密にし、指導の一体化を図る。とりわけ、家庭との協力体制を確立する。
		目 標	・心身ともに健康で安全な生活を営む能力と態度の育成 ・教育相談に関する支援力の向上 ・美化活動を積極的に実践し、自らの学習環境を整備する態度の養成
		計 画	①自己の健康観を確立し、進んで健康の保持増進に努めることができるように、<u>個別指導、集団指導・各種たよりによる啓発や健康相談など、あらゆる機会をとらえて指導する。</u> ②<u>家庭や関係機関と連携を図るとともに、関係教職員が情報を共有し、協力して対応する。</u>また、相談室の機能を高め、効果的に活用する。 ③ 学年、学科、教科、各分掌が連携し、身の回りの整理・整頓や環境美化及び安全に関する指導を行う。
		重点 -2-	

項 目		目標・方針、及び計画	
3	進路支援	目 標	・ 個々の人生観に基づく将来像の構築 ・ 将来設計や進路希望の実現に向けた課題設定と、その解決に取り組む態度の涵養
	重点 -3-	計 画	① 3年間を見通した進路指導計画を策定し、各学科、各学年での取り組み内容を明確にする。 ② <u>様々な進路行事を開催したり、面接指導を充実させたりすることによって進路意識の高揚を図り、目標を早期に設定して学習意欲の向上に繋げる。</u> ③ 大学入学共通テストや個別学力検査などの大学入試問題研究を進め、それに対応した進学指導の構築を図るとともに、自主的・計画的な家庭学習の実施など、生徒の自律性を高める指導法を工夫し、進路目標実現に向けた学力の向上を図る。 ④ インターンシップ等を通して就業意識を高め、適切な進路選択に導く。 ⑤ <u>農業環境科や福祉科では、進路を意識して、意欲的に資格取得に臨ませる。</u> ⑥ <u>保護者会や進路懇談会等を通して、</u> 学校の進路指導の方針について保護者の理解と協力を得る。
	重点 -5-		
4	特別活動	目 標	・ 集団活動を通して心身の調和のとれた人格の陶冶 ・ 個性の伸張とともに、協働による学校生活の活性化を図る態度の育成
	重点 -4-	計 画	① 学校行事では、各行事の目標を明確にするとともに、活動内容を精選し、質の高い効果が得られるように、全教職員の協力体制を確立する。 ② ホームルーム活動では、生徒が学校生活に適応し、よりよい人間関係を形成しながら自らを高めていくための心を育てる。 ③ 生徒会活動では、生徒が活動の主役となる指導の工夫をするとともに、リーダーの養成を行うことによって、自主的な活動の活発化を図る。 ④ <u>部活動では、日頃の活動の充実とともに、強化練習会や合宿などを通して活動の活性化と、競技力の向上を図る。</u> また、部活動を通して、精神力を鍛え、他者への心遣いを大切にするなど、心の成長を促す。
5	その他	目 標	・ 読書を通じて思索を深め、情操豊かで主体的に行動実践できる態度の育成
	重点 -4-	計 画	① 読書会等の学年の読書指導、各教科に係る作文・論文コンクールへの応募指導等を通して、読書の体験を増やし、読書に対する興味・関心を高める。 ② 図書館の教育情報センターとしての機能を充実させ、 <u>「啓明館だより」「はばたき」発行などによる広報活動を活発に行うことなどによって、図書館利用の動機づけを行う。</u> ③ <u>利用しやすい図書館をめざして、蔵書の整理を行う。</u>
		目 標	・ 学校の教育活動に対する保護者の理解を促し、保護者との連携・協力による生徒の健全育成 ・ 地域との連携・交流を推進し、開かれた学校づくりの促進
	重点 -5-	計 画	① <u>学校だよりの発行等を通して学校の教育活動に対する保護者の理解を一層深める。</u> ② 普通科・国際科の地域課題学習、農業環境科の共学農園、福祉科のボランティア活動、また、生徒会活動や文化部活動など、様々な形で地域活動に積極的に参加し、地域との交流を深め、体験活動の機会を増やす。また、これらの活動を外部へ発信していく。

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン -1-		
重点項目	学習指導（教科指導）	
重点課題	教育クラウドやタブレットPCを活用した授業方法の実践研究 互見授業による教員の指導力向上（協働的な学びの促進に向けて）	
現 状	・新教育課程や観点別評価の導入に伴い、実践を具体的に進めていく。 ・若手教員が多く赴任してきており、授業の進め方や授業課題の与え方などに不安を感じている教員も多く、経験のある教員から有効な助言や指導が希求とされている。 ・生徒の学力層が幅広くなってきているために一斉指導に困難を感じるという教員が多い。また、学習意欲が低い生徒や、義務教育段階の学習内容が定着していない生徒も多い。個々の生徒の実態を把握し、生徒が意欲を持って主体的に学ぶよう、授業改善、指導の工夫をしていく必要がある。 ・4学科が併設している本校の利点を生かし、他学科や他教科の授業を参観することで教員の授業の幅や質を高めていくことが必要である。教員自身が指導法を見直し、主体的・対話的で深い学びとなるよう絶えず工夫していくことが肝要である。全生徒がタブレットPCを1人1台持つことを効果的に生かす指導研究を今後も続けていく必要があり、ICT機器の効果的な活用方法を実践研究するなど、研修の積極的な実施が望まれる。	
達成目標	① 教育クラウドを活用した学習指導やタブレットPCを活用した授業を行った教員の割合	② 互見授業および校内外の研修会等への、教員一人あたりの参加回数
	① 85%以上	② 4回以上
方 策	・ICT機器の研修会を行い、基本操作を全教員ができるようにする。 ・各教科で授業での活用方法や問題点などを研究し、活用を推進する。 ・研究授業を行い、検討を通して指導スキルを高めていく。	
	・授業公開期間を学期ごとに設定し、同じ教科だけでなく他教科・他学科の授業も参観しやすい環境を整える。 ・若手教員研修を企画し、先輩教諭の助言を継続して行う。 ・新教育課程やICT・新たな学び関連の研修会等の情報をグループウェアや連絡会で共有し、参加を呼びかける。	

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活（生徒指導・健康管理）	
重点課題	福高生として誇りを持ち、主体的に考え、判断し行動する態度の育成	
現 状	・日常的にスマートフォンやインターネットなどの長時間使用によって生活のリズムを崩したり、SNS を不適切に使用した結果、校内にとどまらず校外の他人とのトラブルに発展したりするケースも見られるようになっている。 ・心身の不調により、遅刻や欠席を繰り返す生徒がどの学年にも存在する。 ・感染症予防への継続的な具体的対策として、学習環境を整えたり、健康管理をするなど自己管理能力を育成する必要がある。	
達成目標	自律週間中の、学習に無関係なスマートフォンの1日の平均利用時間が2時間以内	生徒に健康・安全・感染症予防に関する情報を提供する回数
	「達成できた」と答える生徒が1・2年生で50%以上、3年生で60%以上	年間10回以上
方 策	・適宜、自律を促す啓発活動を行うとともに、自律週間後の振り返り時に使用実態を調査する。 ・生徒の出席状況を確認し、教育相談室、学年、教科担当との連携を密にして生徒支援に努める。	・生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図るため保健厚生委員会と連携して講演会等を企画する。 ・「保健だより」等で、生徒が健康問題に適切に対処するための情報を適宜発信する。

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	「総合的な探究の時間」や進学講話・進路セミナー等行事の充実（普・国・農・福） 生徒への情報提供や面接の充実（普・国・農・福） 検定資格の取得に向けた意識の向上と合格者数の増加（国・農） 介護福祉士国家資格取得（福）	
現 状	・多様化していく生徒に対して、指導の個別化が必要である。 ・広く多くの情報の中から自己の将来像を描いてほしいが、生徒個人で新しい情報を探すことは困難なこともあるため、より効果的な情報提供や面接指導が必要である。 ・国際科では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく伸ばし、活用できるコミュニケーション能力を育成するために、授業内でプレゼンテーション、エッセイ、スピーチ、ディベート、ディスカッションなどの活動を積極的に行っている。また、4技能の伸びを測定するために、毎年全員 GTEC を受験し、さらに、多くの生徒が英検に挑戦している。 ・農業環境科では、農業技術検定と危険物取扱者の学科全員合格、測量士補と造園施工管理技術検定の土木類型での全員合格を目標に学習しており、余力のあるものはさらに各自で資格・検定の合格に挑戦し、アグリマイスターやとやまの高校生マイスターの取得を目標に取り組んでいる。 ・福祉科生徒の進路は多岐にわたるが、「介護福祉士国家試験合格」を目標に掲げる生徒が多く、生徒の目標を実現させるための継続的な指導・支援が必要である。また、近年の介護人材不足により、専門的知識の習得のみならず、実践力を身につけた質の高い介護福祉士の育成が求められている。	
達成目標	① 以下の観点での生徒の満足度 ・先生は生徒の学力向上を目指して努力している。 ・進路についての面接がよく行われている。 ・進路に関する情報が豊富である。 ・進学講話・学年集会は進路を考える上で役立っている。 ・「総合的な探究の時間」は進路を考える上で役立っている。	② 卒業時に英検2級相当以上の英語力を身につけている生徒の割合（国際科） ③ 卒業時まで3つ以上の全国に通用する各種資格・検定に合格した生徒の割合（農業環境科） ④ 介護福祉士国家試験の合格率（福祉科）
	① 80%以上	② 70%（国際科） ③ 100%（農業環境科） ④ 100%（福祉科）
方 策	・進路セミナーや大学・企業研修を効果的に活用する。 ・進路に関する集会や面接を充実させる。また、「総合的な探究の学習」の時間を効果的に活用する。	・総合実習、外部講師の授業、インターンシップ、職業講話などを活用し、進路意識の向上を図る。 ・目標を持って資格取得試験に向かうよう、指導法を工夫し学習習慣を身につけさせる。 ・関連科目の担当者同士の連絡を密にし、資格取得の意義を生徒に理解させ、意欲を引き出すとともに学習内容や生徒の理解度等の把握に努め、適切な課題等に取り組ませる。 ・福祉施設等と連携し、体験活動等の機会を設け、生徒に活動への参加を促す。

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動（特別活動指導・読書指導）	
重点課題	自主態度と思索する心の育成	
現 状	・全校生徒の88%が部活動に加入している。県レベルを超える大会等に出場する団体数はここ数年増加している。 ・合宿や研修会を通して部活動の充実に努めている。 ・生徒会執行部を中心に、体育大会や文化展などの学校行事をはじめ、校歌応援歌練習や各種委員会活動において、徐々に主体的に取り組むようになってきている。 ・強化練習や合宿等の実施等、各部活動の活動内容の見直し・改善によって、学校全体の部活動の活発化を図っている。 ・生徒に読ませたい本や購入したい本が多数あるが、閲覧室は新しい本を置く余裕がなく、書庫も空きスペースがない状況で、蔵書の除籍・廃棄を進める必要がある。 ・読書を活発にするためには、まず多くの生徒が図書室に来ることが先決である。授業等の調べ学習に利用してほしいが、Wi-Fi で接続できないため利用をあきらめる生徒も多数存在する。	
達成目標	① 県レベルを超える大会等への出場団体数	② 情報発信 ③ 蔵書の除籍・廃棄
	① 17団体以上	② お便り（「啓明館だより」、「はばたき」、「啓明」）の発行 年14回 ③ 図書原簿のデータ化の完成
方 策	・強化練習や合宿の実施等、各部活動の活動内容の見直し・改善によって、さらなる部活動の活性化を図る。	・新刊書等の情報が生徒に伝わりやすいように、お便り（印刷物）の発行に加えて、ポップ作成と掲示による視覚的な広報活動を進める。 ・効率的に蔵書の除籍・廃棄に取り組むために、図書原簿のデータ化を進め、廃棄する。 ・Wi-Fi 等の環境整備を図る。

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 5 -		
重点項目	その他（保護者や地域との連携）	
重点課題	保護者と連携・協力のもと、開かれた学校づくり	
現 状	・昨年度から、PTA総会やPTA研修会など、コロナ禍以前の活動に戻った。PTA役員の方々と話し合い、PTA役員の負担感を軽減したり、より意義のあるPTA活動となるように検討・模索していく必要がある。 ・広報誌や情報ツールなどを活用して、保護者の方々にPTA活動や学校についての関心の高揚を図り、相互の連携向上を図る必要がある。	
達成目標	① ホームページの情報更新や内容充実	② 学校について関心の高揚
	① 各種委員会への役員出席率 70%	② 福高だよりの発行 7回
方 策	・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。	・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 ・PTA役員や行事等の際に保護者から意見を集め、関心度を調べる。